

## みんなで支える森林づくり北信地域会議（第2回） 概要

- 1 開催日時 平成22年1月15日（金）午前13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 北信合同庁舎 講堂
- 3 出席者 委員7名（宮崎委員 欠席）  
竹節 義孝 山ノ内町長  
高森 壽實夫 北信州森林組合高森副組合長  
桑原 重雄 栄村森林組合長  
川久保 あけみ みどりの少年団北信地区協議会長  
竹節 高四郎 自然公園指導員  
山崎 義雄 瑞穂地区有害対策協議会長  
笹岡 洋一 指導林家  
報道 北信ローカル  
傍聴等 一般傍聴者なし、中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、  
栄村、北信州森林組合、栄村森林組合（オブザーバー出席）
- 4 開 会  
（1）あいさつ 佐藤地方事務所長  
（2）委嘱状の交付  
高森委員
- 5 会議事項  
（1） 長野県森林づくり県民税活用事業の平成21年度実施状況について  
（2） 平成22年度長野県森林づくり県民税活用事業の動向について  
（3） 意見交換

（市町村・森林組の担当者もオブザーバー出席し、各事業の進捗状況等について補足説明）

### 主な意見

間伐の推進については、県民税を森林組合としても有効に使わせてもらいたい有難いと思っている。22年度は国の施策も変わってくるようなので、県民税活用事業を積極的に活用させてもらえば事業も円滑に進むと思われる。

里山整備を行うことで獣害対策として緩衝帯の効果がある。緩衝帯をしっかり整備することは動物との住わけにとって必要なことである。

「森林経営」という言葉は昨今聞かれなくなった。山に対する気持ちが疎遠になっている。このような状況下で活用事業を導入し、森林整備が進み材の有効活用を図ることが出来れば、山村地域の活性化に繋がり、利用可能となっている木材資源の活用からも弾みになると思われる。森林整備ばかりではなく材が活用できるような事業体系になるよう今後期待する。

切り捨て間伐が多い。里山は、戦後、資産としての価値を期待し、木を大事に育ててきた。現在はほとんど切り捨て間伐である。林業を取り巻く情勢の中で仕方がないことと思うが、間伐材利用にも予算確保をお願いしたい。また、将来的な森林づくりを見据えた施策の展開をお願いしたい。

木島平村南部小学校は本年度を持って閉校する。これに伴い学校林で間伐を実施し、その間伐材を利用してオルゴールの箱を作りその中に校歌を入れたオルゴールを入れ思い出の品として作成している。学校林は、学校を建てる時、増改築時に材が使えるように学校林を造成し、地域の人がみんなで大切にしてきた。しかし今の子供たちにはこのような意識がないため、それをとおして森林学習することができた。みどりの少年団を中心に間伐をるところから、材の搬出までの作業手順も森林学習として体験できた。また、間伐材から一枚の板を取り、地域の方々にも参加いただき記念の句や絵を描いていただき閉校式には展示できるよう作業を進めている。

県民税を活用して方々で森林整備が見られるようになってきた。しかし、現地に行くと何の事業で実施したかわからない。施工地にA3版程度の看板等を設置し、県民から見て税の活用の方法が目で見えるようなPRをする工夫が必要である。

県民税の使われ方が、一般県民に対し周知徹底がいまいちできていない。PR活動がされなくてはならない。間伐材をし、森林を造ると同時に間伐材の有効活用も検討し方向性を出す必要がある。

間伐材の活用が今後一番のポイントとなる。活用できる材は現在も活用している。しかし、活用できない材が山に放置されている。活用されていない材を今後どのように使っていくか検討し方向付け願いたい。特に当地域ではカシノナガキクイムシの枯損木被害が出ている。被害対策に取り組んでいただいているが被害材の活用についても検討願いたい。

木材価格が低迷しており平成21年最低となった。国では将来的に木材自給率を50%に上げるということであるが、森林所有者の立場で考えると、伐採した時、植栽意欲が湧くように林業が再生可能となるよう森林税の活用を含め検討願いたい。

学校教育の中で、森林学習を学習の中に位置づけて、問題意識や未来を持てる子どもたちへの意識付けを地域とともに進めていくことが大切である。

間伐材の搬出に県民税を活用できるように検討願いたい。



地域会議開催状況